

介護保険事業計画に記載した「取組と目標」等の取組状況及び自己評価結果等(令和3年度分)

市町村名
新見市

◎ 岡山県介護保険事業支援計画に記載の「取組と目標」に関する事項

1 自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組と目標

(1) 多職種協働による地域ケア個別会議

①定例化	②開催回数	③目標(数値等)	④自己評価	⑤課題、今後の方針等	⑥令和4年度の予定
定例化(月1回以上)	6回	10回	R2年度より定例化し開催。この取組により、①～③の効果が得られた。 ①リハビリテーション専門職から身体の機能維持・運動習慣の定着に向けての具体的な助言が得られる ②各専門職の視点を活かした助言が得られる③各自の事例を他者にオープンにするしくみが、自立支援をより意識したケアマネジメントにつながる。	・今後も支援の質の向上につながる取組として継続していく必要がある。 ・課題:事業の評価方法について(客観的な評価指標の設定)	岡山県リハビリテーション専門職派遣事業を活用し、多職種参加による自立支援・重度化予防を目的とした地域ケア個別会議を月1回開催する。
					開催頻度→月に1回 定例化→定例化している

(2) 通いの場 (週1回以上、住民運営で体操を行うもの)

①「住民主体で週1回以上」の箇所	②左のうち体操を行う箇所数	③目標(数値等)	④自己評価	⑤課題、今後の方針等	⑥令和4年度の予定
0箇所					

(3) 担い手等：リハビリテーション専門職、生活支援コーディネーター及び通所付添サポーター

①リハビリテーション専門職による介護予防への関与	②生活支援コーディネーター人数	③通所付添サポーター人数	④自己評価	⑤課題、今後の方針等	⑥令和4年度の予定
有り	20名	0人	生活圏域ごとに小地域ケア会議を開催し、地域住民と専門職(SCを含む)が地域課題の抽出や支え合い・助け合いの創出に向けての協議を行っている。協議内容は地域課題に即した様々なテーマで行っており、通いの場の取組に限らず、多様な生活支援の担い手(買い物支援・見守り活動等)について検討されてい	住民主体を基本とした取組や活動を目指しており、地域住民と協議を重ねる中で通いの場や居場所づくりの取組を進めていく必要がある。介護予防に対する地域住民の意識を高めるために、リハ職やSCとも協働していく。	小地域ケア会議を開催し、地域住民と専門職が協議を重ね、地域課題の解決に向けた住民主体の取り組みをめざす。 現在、34地区で開催している小地域ケア会議を市内全体39地区開催に向け、継続支援する。

2 介護給付の適正化に関する取組と目標

(1) ケアプラン点検

①点検実施数	②ケアプランの全数	③アドバイザー派遣受入実績	④アドバイザー派遣の受入が無の場合、実績が無い理由、今後の方針等	⑤課題、今後の方針等	⑧令和4年度の予定
107件	15,035件	無し	市が行うケアプランチェックでは不十分と考えるため、今後は導入を検討したい。		
実施率(①/②)		⑤目標(数値等)	⑥自己評価	⑦課題、今後の方針等	
0.7%		110	特例給付・例外給付の申請においては、ケアプランを徹底し、給付の判断を行っているが、適正なサービス提供・給付のため、定期的なケアプランチェックも必要と考えている。	ケアプランチェックにおいては、資格等での対応ができていないため、人員配置等も含め、体制整備等が必要と思われる。	今年度も引き続き、認定調査員の資質向上、適正化システムの有効活用により、適正給付に努めていきたいと思う。

介護保険事業計画に記載した「取組と目標」等の取組状況及び自己評価結果等(令和3年度分)

市町村名
新見市

◎ 市町村介護保険事業計画に記載した「取組と目標」に関する評価等

1 自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組と目標

分類	項目名	目標(数値等)	実施内容・実績	自己評価	課題、今後の方針等
介護予防	介護予防普及啓発事業	200回/年開催 参加者2,800人 (延べ)	各種団体の集まる場を利用して、介護予防や生活習慣病予防等についての健康教育を実施し、地域で介護予防、健康づくりの取組を自主的に実践できるよう支援した。年166回開催し、参加延べ人数は2,192人であった。	市民の要望に合わせた教室内容を地域に出向いて実施しており、教室の認知度は市民へ浸透してきている。	今後も市民の要望に合わせた教室内容を継続して実施し、地域の介護予防、健康づくりの取組みを自主的に取り組むことができるように支援する。
介護予防	地域介護予防活動支援事業(ふれあいきいきサロン)	85会場	68会場で、高齢者の閉じこもり防止や健康・生きがいづくりなどの介護予防を目的に地域の身近な場所に集い、体操やふれあい、交流を深める活動を開催。	参加者同士の情報交換や社会交流等が促され、閉じこもり防止や介護予防につながっている。	今後も楽しみながら、地域の絆を深める活動ができるよう、マンネリ化の防止を図りながら推進する。
介護予防	地域介護予防活動支援事業(地域いきいき健康アップ支援事業)	23会場	23会場で、公民館事業や地区組織事業と連携し、地域の高齢者のための運動機能改善を目的とした運動を重視した介護予防の教室を開催。	参加者は運動を意識的に取り組むことができおり、運動機能や健康の維持ができています。	参加者の固定化傾向がみられることから、地域の実情に応じた教室内容を検討し、運動の定着に向けた取り組み方法を推進する。
介護予防	地域介護予防活動支援事業(運動ふれあい地域づくり支援事業)	18会場	16会場で、地域の高齢者のための転倒予防と閉じこもり予防を中心とした介護予防活動や参加者同士の交流活動等を目的とした教室を開催。	マンネリ化を防ぐ工夫を凝らした教室内容で、参加者同士の交流が深まっている。	参加者の高齢化、固定化傾向がみられることから、参加者の身体状況や地域の実情などに応じた教室内容を検討する。
自立支援	介護予防・日常生活支援総合事業	訪問型:120人/月 通所型:270人/月	訪問型:1,108人(延べ)、通所型:3,028人(延べ)の利用があった。	地域の実情や利用者個々のニーズに応じて、サービスを提供した。	今後も様々なニーズに応じたサービスの実現のため、多様な担い手の算入による事業の展開に取り組んでいきたい。

2 介護給付の適正化に関する取組と目標

分類	項目名	目標(数値等)	実施内容・実績	自己評価	課題、今後の方針等
給付適正化	要介護認定の適正化(認定調査・点検実施率)	2,400	2,127件の認定調査を実施した。	認定調査の内容、特記について、別の調査員による事後点検を徹底し、適正な介護度の認定に努めた。	引き続き、適正な介護度の認定に努める。
給付適正化	ケアプランの点検	110	特例給付・例外給付の申請において、107件の点検を実施した。	特例給付・例外給付の申請においては、ケアプランの点検を徹底し、給付の判断を行っている。	定期的なケアプランチェックも必要と考えるが、資格職等での対応ができていない。人員配置等も含め引き続き検討が必要と考
給付適正化	住宅改修・福祉用具販売等の点検	450	440件の申請があり、全てにおいてケアプラン等の確認を行った。	全件において、ケアプランまたは理由書を確認し、適正な給付を行うことができた。	引き続き、適正な給付実施に努める。
給付適正化	医療情報との突合	40	国保連合会に委託し、20件の請求疑義を見つけることができた。	目標値は下回ったが、請求誤り等の是正を図ることができた。	引き続き、国保連合会へ委託し実施する。
給付適正化	介護給付費通知	4,950	4,787通の通知を発送した。	適正な送付を実施できた。	引き続き適正な送付実施に努める。